



⑤ 奈良時代の佐伯門周辺の様子

敷地内の表示と佐伯門の基礎整備を手掛かりに、1300年前の平城京の風景を想像してみてください。



⑦ 庁舎エントランスより平城宮跡を望む



⑥ 現在の佐伯門跡周辺の様子



⑧ 本庁舎の敷地全景(南から)

奈文研本庁舎敷地の遺構表示
発行年：2018年
発行：独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2-9-1



佐伯門前の風景

—奈文研本庁舎における平城京の空間の表現—

奈文研本庁舎が建つ場所

奈文研の本庁舎が建っている場所は、平城宮の西面中央に開く佐伯門の正面にあたります。奈良時代には、一条南大路と西一坊大路という縦横の条坊道路が佐伯門の前でT字に交差し、⑤のイラストのような風景が広がっていました。

本庁舎の建設にあたっては、大路の遺構の保存を図り、佐伯門前の空間を体感できるように、遺構の表示等をおこないました。また、平城京建設時に秋篠川旧流路を利用して作った斜行大溝の位置も表示しました。

奈良時代の遺構の表現

一条南大路と西一坊大路

奈良時代には幅約25mの一条南大路が本庁舎の敷地を東西に横断していました。そこで本庁舎の設計にあたり、佐伯門の真向かいに正門を配置し、そこからエントランス棟の正面入口に至るアプローチを利用して、実際の大きさと位置で大路を再現することとしました。路面の範囲は濃灰色の切石で舗装し下草のスリットを入れました。路面の南北には排水のための側溝が掘られており、両者をつなぎ路面を南北に横断する溝も発掘調査で確認しましたので、これらを白色の玉石敷で表現しました。

西一坊大路も敷地内に含まれます。こちらの路面も濃灰色で舗装し、両大路を濃灰色で統一しました。側溝については西側溝のみを玉石敷等で表示しました。東側溝の位置は敷地東辺の生垣を施した土塁の位置にあたります。この土塁は既に整備されていた平城宮跡西辺の境界土塁の意匠にあわせて1980年に凝灰岩切石積で整備したものです。

敷地の南部では西一坊大路の雰囲気を出すために、奈良時代にも街路樹として使われていたエンジュと、アラカシの高木を側溝に沿って並木状に植えました。正門の一对のサクラは平城宮跡内のサクラ並木との連続性を意図したものです。



📍 : 写真の撮影場所と撮影方向



① 一条南大路跡 (東から)

斜行大溝 (運河)

発掘調査では両大路が建設される前には秋篠川の旧流路を利用した斜行大溝が確認され、その両岸の位置を厚さ5ミリメートルの金属プレートを模式的に埋め込んで表示しました。この斜行大溝は敷敷・敷粗染工法により埋め立てられており、敷詰められていた枝葉はツブラジイ、ヒサカキ、二葉マツ (クロマツ) 等のものでした。そのため、エントランス棟の南側にこれらの樹木を植え、1階のホールから窓越しに学習できるようにしました。



② 斜行大溝北岸の表示



③ 斜行大溝南岸及び排水溝の表示



④ 西一坊大路跡 (北から)